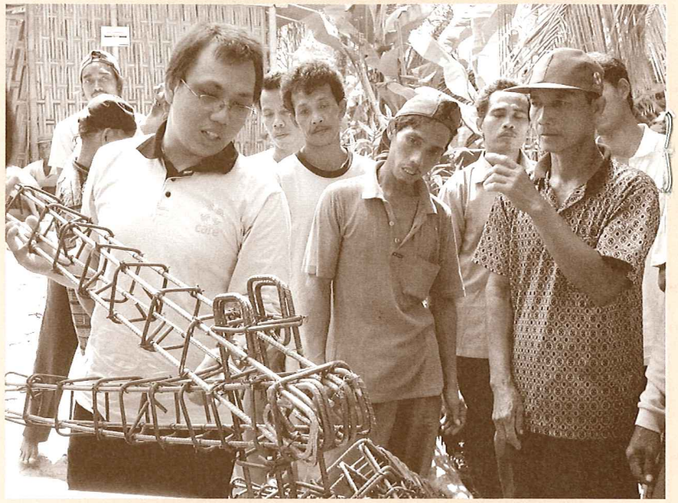
# ジャワ地震から1年～被災者は今

*この記事は、2007年5月にケア・インドネシアが制作したジャワ地震1年後のリポートの内容をまとめたものです。

2006年5月27日、マグニチュード5.9の地震がインドネシアのジャワ島を襲いました。この地震により中央ジャワとジョグジャカルタ地域の270万人以上の人々が被害を受け、約6000人が命を落とし、37,000人以上が負傷しました。ほんの数分の地震が引き起こした壊滅的な被害の影響はずっと続きました。2004年のスマトラ沖津波地震のときのインドネシア国内での数よりも多い約100万人が家を失いました。地震発生から48時間以内に、CAREは被災地に入り、被害状況の調査を開始しました。1年経った現在、CAREの活動は緊急支援から、被災者の生活の再建を支える復興支援段階に移行しています。世界中の支援者からいただいた約320万ドルの寄付金は、最も必要とされる地域において展開したさまざまな活動に役立てられてきました。ここでは、CAREがこれまでに行ってきた主な活動について報告します。



## 緊急支援

### 1.安全な飲料水

地震により井戸が破壊され、飲み水はトイレからの汚染された水にさらされました。住居を失った世帯は、安全ではない水を使うしかなく、これにより下痢などの水因性の病気を発症する危険性が増しました。CAREは、現地のパートナーNGOと連携して、20万人以上の被災者に水の浄化剤の配布を行うとともに、その使用方法や注意点などについての説明も行いました。また、啓発キャンペーンも実施し、住民に正しい衛生知識を定着させるための情報普及を行いました。

### 2.保健

被災者の間に感染による病気が増加しているのを受け、CAREは、病気を予防するための健康に関する教育プログラムを実施しました。現地パートナーNGOと連携し、健康と衛生的な生活習慣に関する教育をコミュニティに対して行うことで、公衆衛生を改善し、人々の命を救うことができます。このプログラムでは、破傷風や下痢、デング熱などの予防や特に乳児に対する対応が重要課題に含まれています。また、これらの情報を共有するため、CAREとパートナーNGOは、助産師に直接働きかけ、コミュニティの保健ボランティアに対してトレーニングを実施しました。

### 3.地域経済を活用した支援

農作物や家畜が被害を受け、65万人以上が生活手段を失ったことにより、ジョグジャカルタの農村地域の住民は貧困状態に陥りました。そこでCAREは、地域経済を活性化しながら、増大する食糧不足に対応するため、地域経済を基盤とする革新的な支援プログラムを開始しました。このプログラムでは、被災者は、CAREから配布される券と引き換えに地元の商店から食糧を手に入れることができます。一方で、CAREがそれらの食糧を提供した商店に対して支払うことで、商店の収益増加を助けます。提供されるものは、食糧のみでなく、石けんや歯みがき粉などの衛生用品も含まれます。CAREは、このプログラムにより1万人以上の人々を支援し、地元の商店30店の再建を助けました。プログラム終了までに、発行された99%の券が商品と引き換えられました。

## 復興支援

### 1.住民自らが関わる住居と生活の再建

CAREは、耐震性のある住居の建設とあわせて地域の経済の再建を支援するプログラムを実施しています。このプログラムは、家を建てることを直接的に支援するのではなく、耐震性のある住居の建築に必要な物資とトレーニングを人々に提供し、住民が主体となって住居や生活の再建に関わることを支援するものです。CAREは、現地のエンジニアや建設作業員などに適切な耐震工法についてのトレーニングを行い、また、住民からは代金を徴収せず、これらの建設作業員が住民のための住居建設を行うよう手配します。その代わりに、住民たちは高度な技術を必要としない労働を提供したり、政府からの補助金で建材を買います。こういった活動を通して、CAREは安全な住居、安全なコミュニティ作りを促進するとともに、現地のエンジニアや建設作業員の能力向上をはかっています。



## 頑丈な住居、安心して暮らせる家

1年もの間、Kasiatunは避難所に住み、最低限の生活をしてきました。「今はテントで暮らしています。これは私が自ら建てたのです」。地震により、築35年の家と財産をすべて失いました。しかし今は、彼女の家の建設が始まろうとしており、過去の出来事を過ぎ去ったものと考え、前に進むことができます。ガッツポーズをして「ワクワクするわ」と彼女は言います。ほかの村人たちと同様に、自ら単純な労働に関わり、自分の村の再建に貢献することに意義を見出しています。
「私はとっても幸せです。もうすぐ新しい家を持つことになるのだから」。

### 2.住民が中心となった水に対する習慣改善

地震により破壊された井戸の飲料水は、周辺のトイレからの汚染水にさらされました。CAREが行った調査では、ジョグジャカルタの2つのコミュニティのほぼ大半の井戸が大腸菌によって汚染されていることが確認されましたが、住民はこれらの井戸水を適切に扱うための知識を持っておらず、下痢や皮膚病が増加しました。こういった健康面での脅威と闘うためにCAREが実施しているプロジェクトでは、女性グループ、男性グループ、コミュニティグループを通して、住民に適切な水の扱い方を教える活動を行っています。コミュニティグループは、リーダーシップをとり、現地のニーズに合った教材を考案しています。また、演劇などさまざまな形の啓発のための活動を行っています。また、安全な水を得るために必要な湯沸かし器を購入するために、貯蓄・貸付プログラムを行っているグループもあります。このプロジェクトにおける活動は、水の適切な扱い方に関する住民の知識を増やし、将来にわたってコミュニティに持続的な効果をもたらすものと期待されます。

## 隣人のためになる

「地震の後、井戸の水は濁り、悪臭を放っていて、飲むことはできませんでした」。今、Sunartiは、CAREのプロジェクトに参加し、コミュニティの人々が安全な水を手に入れることができるよう、水の扱い方を教えています。災害後、生命を脅かすことになり得る水因性の病気を引き起こさないようにするためです。現地において文化的に最も効果のある教授方法がわかるSunartiのような地元のボランティアの存在は、この上なく貴重です。家庭訪問、イベント、演劇などどのような形であれ、教育は習慣の変化をもたらすために必要不可欠です。Sunartiは、CAREバッグを大事そうに抱き、まっすぐ前を見ながら、コミュニティでのボランティア活動とこのプロジェクトに参加していることに対して誇りを持っていることを話します。
「私は、家族やコミュニティの人々の水に対する習慣を変えたいと思っています。知識を持っているということは、何よりも有益なことです。今、私の家族は、安心して水を飲むことができます」。

被災地におけるCAREの支援は、今後も継続して行われます。ケア・インターナショナル ジャパンでは、地震開始直後から2006年12月までジャワ地震緊急募金に対する皆様からのご協力をお願いし、多くの皆様からご寄付をいただきました。ご支援いただきました皆様に、紙面を借りて心よりお礼申し上げます。

all photos:Andrea Lanthier-Seymour/CARE